

伊那の井月さん



伊那市教育委員会
井上井月顕彰会

編著

目次

どこからともなく……伊那へやってきた井月さん | 4

伊那の空の下で…… | 6

井月さんの謎なぜ | 8

井月さんはなぜふるさとを捨てたのか | 11

井月さんの生き方 | 12

コラム

俳句は世界で一番短い詩 | 15

季語のいろいろ | 18

俳句の歴史を学ぼう！ | 19

井月さんの俳句の四季 春 | 20

夏 | 23



あとがき

② 井月年表 47

① 井月が世に出るまで 井月を慕った人 46

付録

井月さんの死 42

晩年の井月さん 39

井月さんの帰郷 37

幕末維新ばくまつしん — 新しい時代を迎えて 34

新年 31

冬 29

秋 26





どこからともなく……

伊那へやってきた井月さん

時鳥旅なれ衣脱ぐ日かな

今から一六〇年ほど前、日本がアメリカの黒船によって開国をし、海外との貿易が行われるようになった幕末の頃のことです。深編笠の旅姿の侍が伊那へやってきました。

どこから来たのか、どうしてやってきたのかは、誰にも語りませんでした。ただせいげつ、井月とだけ名乗ったのです。

この人がその後三〇年間、家もなく妻や子も持たないで、この伊那谷の空の下で放浪の生活を送った俳人井上井月です。伊那の人たちは親しみを込めて井月さんと「さん」づけで呼んでいました。

伊那谷は三〇〇メートル級の山々が連なる中央アルプスと南アルプスに挟まれた大きな盆地です。真ん中を、諏訪湖を源とする天竜川がつらぬき、そこに流れ込むいくつもの支流沿いに、田んぼや畑が開かれた比較的豊かな所です。井月さんが来たころは養蚕も盛んで、春や夏、家によっては秋にも蚕を飼っていました。農村では俳句（その頃は

発句といっていました）が盛んで、仕事の合間には五・七・五の句を作って楽しんでいました。そんな伊那が気に入ったのか、やってきた井月さんの心の中に、

時鳥旅なれ衣脱ぐ日かな

といった気持ちが芽生えていったのでした。

